

恵みと真理のニュース



2014年1月の一次 恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証]

神様は私達の非難先であり、 患難の中で会う大きい助けである

私が小学校1年生の時に父が他の人の金請けに立った事で突然家を失って家族みんながばらばらになり私と2番目の兄は親戚の家を転々しました。当時小さかった私にあまりにも大きい衝撃だったかその事があったから私の性格は消極に変わり彷徨しながら育ちました。友達に伝道され小学校5年生の時少し主日学校に通いました。耐えないうらい大変で悩んでいる時私に関心を持ってくださりイエス様の愛で私の面倒見てくださった先生が思い出しました。また、信仰がなかったですが大きい声で歌った“主はわれを愛す”“主の優しい腕に抱き”賛美歌が思い出したりしました。それで抜け口を捜すように教会に行きイエス様を頼りイエス様に慰められたくても気軽に勇気が出なかったです。成長して結婚し私の家の近くに先にイエス様を信じた義姉をついて区域礼拝から捧げました。教会に行くと言教の御言葉が全部理解できないが世で得られない喜びがあるから熱心に通いました。ピョンチョンで引越しをしてから区域長の導きで恵みと真理教会を通うようになりました。最初は新しい教会の環境に適応が出来なく礼拝の時間に居眠りして心の中で葛藤もありました。しかし、休まずに礼拝に参加し当会長牧師の説教を聴くと恵みと真理で充滿になり正しい信仰と迷わない堅い信仰を持つとおっしゃった区域長の勧めに従順しました。するとさすががある日から居眠りもなくなって御言葉が私の耳に分かりやすくなり始めました。その後“今日教会で礼拝を捧げる時に牧師がどんなメッセージをするかと期待する心ができ、礼拝に参加できない場合になると心霊が切なくて礼拝ことに休まずに捧げるように祈りました。神様は環境の扉を開いてくださって礼拝の楽しさを悟らせました。伝道をする熱心と願いが出来伝道を良くできる方についていきましたがそれだけでも楽しんで大胆に直接に人々に福音を伝えると踊るほど嬉しくて喜びで心が満たされました。教区で執事の証を聞くと私が経験した事のように心がじんとする恵みと感動も受けました。しかし、礼拝を休んで祈りを怠けるとすぐ憎みと不平の心になりました。スワンで引越しをして一時期物質的、心理的、霊的に苦しみと葛藤がありました。ここにも私に対する神様

の御心があって摂理があると思ひ“聞き従うことはいけにえにまさり”御言葉に従順して熱心に礼拝中心の生活をしました。礼拝に参席して説教を聴くと憎み、不平と、いらいらする事がなくなり主がくださる肯定と希望の考えを抱いて神様を信頼し協力して善を行なわれる事を信じ新しい力を得られました。神様の言葉は生きており、力があるのでどんな状況で希望を失わず自身を持って生きるように導いてくださいました。“すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。”(コリント信徒への手紙二 12:9)パウロ使徒のように私も私が経験した苦難と困難も神様の恵みである事を悟りました。2011年5月6日アバートの入り口で大きい交通事故で脳を大きい怪我をしました。近い病院の応急室に行きましたがすぐ手術をできる医師がいなかったです。病院で一分一秒でも早く手術をする事が後遺症と障害を少しでも減らすので他の病院を調べて旦那に教えてくれて急にその病院に移送され手術を受けました。手術はよくできましたが左の耳で血が続いて流れている状態をおいて見なければならぬと言いました。幸いすぐに血は止まったが脊髄がずっと流れて、脊髄に穴を開けて多くの脊髄を抽出する手術をまた受けました。しかし、止まらなくて一週後医師が回診しながら仕方ないような暗い表情でかぶりを振りました。医師のそんな表情は私は入院して初めての表情だったので信仰が弱い旦那は“妻を助けてくださると何でもします。”神様に切ない心で祈ったそうです。その日の夜私は熱が40度を超えて全身が振るえて手術したところがまた破れて再手術するのではないかと心配になりました。眠ると大丈夫だと思つて眠るように神様に祈りながらある瞬間すぐ寝ました。次の日に朝介護する人によると脊髄を抜くためさしてあるホースが抜け血があちこち四方に跳んで命を喪われる大きい危機が襲って医者達と旦那が多くの苦勞したと言ってくれました。ところが私は全く思ひ出せません。神様が長い夜を私の平安で私を守ってくれたのです。神様の恵みと私をため切に祈ってくださった牧師と教区長また区域員達の愛に感謝して涙ができました。私が病院にいる間多

くの聖徒達がよく遠いところまで来てくださって慰めと祈ってくださいました。神様の助けで状態がよくなりスワンのリハビリ病院に移してスワン聖殿で礼拝を捧げる事ができ近い5分もかからない郷里を痛い体で旦那の手を握って30分以上を歩いて教会で礼拝を捧げながら大変な心より喜びと感謝する心で礼拝を捧げました。危機を越えて一日違うように回復する私の姿を見て医師も患者保護者達も介護者もみんな奇跡だと言いました。神様は私が病院にいる間人々に偉大な神様の愛と権能を伝える神聖な喜びも私にくださいました。1年間リハビリ治療を受けた後退院しました。まだ、自動車を見ると怖れますがこれも神様が完全に治療してくださる事を私は信じます。毎朝“恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える。(イザヤ41:10)”“死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れない、あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖、それがわたしを力づける。(詩篇23:4)”“どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。(フィリピの手紙 4:6) 御言葉を覚えて神様を仰ぎながら一日を始めます。私に永遠な命をください時により助けてくださる恵みと治療してください神様は私を最後まで守ってくださいことを信じます。また、もっと平安と喜びある人生にみちびいてくださる事を信じ一日を最善を尽くして生きています。患難と苦しみはなでも恵みを満たしてください家族を救ってください神様に私達の家族みんな一つになって神様の喜びとなり忠誠した働き者になります。また主を堅く信じ賛美と栄光を捧げます。神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの岩。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。わたしたちは決して恐れない、地が姿を変え、山々が揺らいで海の中に移るとも、海の水が騒ぎ、沸き返り、その高ぶるさまに山々が震えるとも。(詩篇46:1-3) ハレルヤ!



[信仰コラム]

常に神様の仕事にさらに力を尽くすと

だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの苦勞がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。(コリントの信徒への手紙一15:58)

全(すべて)の生命(せいめい)体(たい)は細胞(さいぼう)で構成(こうせい)されています。一(ひと)つの細胞(さいぼう)には細胞(さいぼう)質(しつ)と細胞(さいぼう)中心(ちゅうしん)に核(かく)膜(まく)に取(と)り囲(かこ)まれて細胞(さいぼう)核(かく)があり、細胞(さいぼう)核(かく)は染色(せんしよく)体(たい)となっていて、各(かく)染色(せんしよく)体(たい)は40%がDNAになっています。ここに遺伝(いでん)情報(じょうほう)が書(か)かれています。知(し)られていることによると人間(にんげん)と比較(ひかく)した遺伝(いでん)子(し)一致(いっち)はオランウータンが97%、ゴリラが98%、チンパンジーは99%だったそうです。生命(せいめい)体(たい)を染色(せんしよく)体(たい)レベルより分子(ぶんし)のレベルから見(み)ると、その差(さ)がさらに縮(ちぢ)まっています。すべての生命(せいめい)体(たい)が分子(ぶんし)になった細胞(さいぼう)という点(てん)では共通(きょうつう)性(せい)があり、人(ひと)が神(かみ)を崇(あが)めて永(えい)生(せい)を求(もと)めることは魂(たましい)を持(も)った存在(そんざい)だからです。この点(てん)で、他(た)の生命(せいめい)体(たい)たちと完全(かんぜん)に区別(くべつ)されます。アダム(はんざい)の罪(ざい)によってその子孫(しそん)の人(ひと)たちは罪人(ざいにん)になって、神(かみ)様(さま)との関係(かんけい)で正常(せいじょう)状態(じょうたい)から脱(だつ)するようになりました。それで、被(ひ)造物(ぞうぶつ)を神(かみ)のように仕(つか)えるようになって自己(じこ)存在(そんざい)の根源(こんげん)と理由(りゆう)と目的(もくてき)に対(たい)する認識(にんしき)能力(のうりよく)が壊(こわ)れてしまい、人生(じんせい)の終着(しゅうちやく)駅(えき)は滅亡(めつぼう)と地獄(じごく)がなくなってしまいました。このような人生(じんせい)を哀(あわれ)に思(おも)った神(かみ)様(さま)が啓示(けい)

じ)の言葉(ことば)をいただき真(しん)の神(かみ)と神(かみ)様(さま)の救援(きゆうえん)計画(けいかく)について教(おし)えて啓示(けいじ)した言葉(ことば)を信(しん)する者(もの)たちに救援(きゆうえん)得(え)る道(みち)を開(ひら)いておいたです。約束(やくそく)したとおりで、救世(きゆうせい)主(しゅ)イエス・キリスト(を)送(おく)って拘束(こうそく)使役(しえき)を完遂(くわんすい)させてイエス・キリストを信(しん)する人(ひと)は誰(だれ)でも罪(つみ)を許(ゆる)す受(う)けながら、魂(たましい)が聖霊(せいれい)に生(う)まれ変(か)わって永(えい)生(せい)を得(え)るようになりました。イエス・キリストを信(しん)する人(ひと)は人生(じんせい)の道(みち)で暗(あん)く模索(もさく)と彷徨(ほうこう)が止(と)まっています。自分(じぶん)がどこから来(き)てなぜ生(い)きてみてどこに行(い)くのか確実(かくじつ)に知(し)ることにあります。自分(じぶん)は神(かみ)様(さま)からキリストの中(なか)にあるということが分(わ)かるようになります。永遠(えいえん)な福(ふく)樂(がく)を享受(きやうじゆ)するように生(い)きている父(ちち)の家(いえ)と呼(よ)ばれる天国(てんごく)に向(む)かって行(い)く旅人(たびびと)というものが分(わ)かるようになります。そして神(かみ)様(さま)を礼拝(らいはい)し、神(かみ)様(さま)の仕事(しごと)に力(ちから)を入(い)れながら、生(い)きるものが生(なま)の理由(りゆう)で目的(もくてき)になって暮(く)らしています。社会(しゃかい)における身分(みぶん)と役割(やくわり)が何(なん)でも核(かく)心(しん)的(てき)な生(せい)の理由(りゆう)と目的(もくてき)は礼拝(らいはい)と神(かみ)様(さま)の御心(みこころ)です。すべての活動(かつどう)がこの二(ふた)つの軸(じく)に連携(れんけい)されています。第(だい)一(いち)、転倒(てんとう)は、神(かみ)様(さま)の御心(みこころ)です。神(かみ)様(さま)の大(おお)きな関心(かんしん)事は罪人(ざいにん)が救(すく)いを得(え)ることです。救援(きゆうえん)することは神(かみ)様(さま)の主権(しゅけん)だが、福音(ふくいん)を伝播(でんぱ)することは聖(せい)徒(と)たちに任(まか)せました。第(だい)二(に)に、神(かみ)様(さま)の名前(なまえ)で救済(きゆうさい)することが神(かみ)様(さま)の御心(みこころ)です。教会(きやうかい)が設立(せつりつ)されると、必(かならず)ず教会(きやうかい)は救済(きゆうさい)に取(と)り組(く)むことになり、第(だい)三(さん)に、教会(きやうかい)のた

めに奉仕(ほうし)するのは神(かみ)様(さま)の御心(みこころ)です。教(きやう)会堂(かいどう)建築(けんちく)をために献金(けんきん)と体(たい)からだで奉仕(ほうし)することも神(かみ)様(さま)を喜(よろこ)ぶ礼拝(らいはい)する神(かみ)様(さま)の御心(みこころ)です。一人(ひとり)がイエス・キリストを信(しん)するが有益(ゆうえき)に使(つか)われたならば、その教会(きやうかい)の建物(たてもの)に多(おおく)くの費用(ひよう)をかけたとしてもその建物(たてもの)は価値(かち)あるものに使(つか)われたものです。日増(ひま)しにさらに努(つと)めてイエスキリストの仕事(しごと)をしなければなりません。神(かみ)様(さま)の仕事(しごと)ができないように振(ふる)る考(かんが)えと言葉(ことば)を分別(ぶんべつ)して、その背後(はいご)に歴史(れきし)するサタンを撃退(げきたい)しなければなりません。イエス・キリストの神(かみ)様(さま)に対(たい)する礼拝(らいはい)は、神(かみ)様(さま)の仕事(しごと)に力(ちから)を入(い)れられない生(い)きている人(ひと)は分子(ぶんし)レベルで暮(く)らして染色(せんしよく)体(たい)水準(すいじゆん)で買(か)った人(ひと)です。動物(どうぶつ)のように生(い)きて死(し)ぬのです。しかし神(かみ)様(さま)を礼拝(らいはい)して神(かみ)様(さま)の仕事(しごと)に力(ちから)を入(い)れながら、生(い)きている人(ひと)は他(ほか)の生命(せいめい)体(たい)とは比(くら)べ物(もの)にならない高(こう)次元(じげん)の人生(じんせい)を生(なま)めていきます。すべての人(ひと)が将来(しょうらい)的(てき)に神(かみ)様(さま)の前(まえ)に立(た)つ日(ひ)が来(く)るようになります。世(よ)の中(なか)で、偶像(おうちや)に仕(つか)えたり、自分(じぶん)だけのために生(い)きた人(ひと)とイエスキリストの神(かみ)様(さま)を礼拝(らいはい)して、神(かみ)様(さま)の仕事(しごと)に力(ちから)を入(い)れながら、買(か)った人(ひと)が立(た)つようになる状況(じょうきやう)は大(おお)きいに異(こと)なることが御心(みこころ)です。そして、天国(てんごく)で笑(わら)う者(もの)は永遠(えいえん)に笑(わら)うようになります。

「チヨヨンモク牧師先生の信仰コラム「緑の牧場、清い川」本の語り中」

驚異的で珍しい運命



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

すべての自然現象や人間事はもう決まっているから変更させることができないという理論が運命論です。ところで聖書を通じて神様が分かって信じるようになれば珍しい運命論者になります。聖書に啓示された神様は全能な創造者です。自分の意どおり何でもなさることができる絶対主権者です。国と民族の興亡盛衰は神様が彼の予言者たちを通じて予言なさったそのまま成就しました。ところで神様の予定には人間の自由意志が及ぶことができない分野がある一方に人間の自由意志が及ぶことができる分野もあります。神様の予定と選ぶに関して私たちの分かることはとても少ないです。神様が知らせてくれないならば私たちとしては分からないことがたくさんあります。しかし神様は私たちの人生たちが必ず分かなければならないものなどは皆啓示なさいました。

今日は人間の自由意志が及ぶことができない分野と人間の自由意志が及ぶことができる分野が何やら調べます。これを通じて皆さんは当面することに対して最善の選択と決定をして積極的な行動を取るのに助けを得るでしょう。

先に、イエス様が公生涯の末に至って弟子たちとペテロにおっしゃったお話をよく見ます。

イエス様が弟子たちを連れてエルサレムに上がりました。そして弟子たちとともに最後の晩餐をしました。聖晩餐の終わった後イエス様が甘藍山にいらっしやしながら弟子たちにおっしゃったお話が マタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書、ヨハネによる福音書にすべて記録されています。総合して見ればこのようです。(マタイ 26:31-35, マルコ 14:27-31, ルカ 22:31-34) イエス様がさっと予告のおっしゃいました。“あなたがたの皆が今夜に私を裏切るでしょう。記録されているのを‘私が牧者を打つはずだが、それでは羊の群れが散らばるでしょう’したからだ。シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを妻のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくなないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい”。(ルカによる福音書 22:31~32)。”するとペテロが直ちに応じました。“皆が神様を裏切っても私は決して裏切らないです。私が神様とともに監獄にも、死ぬことに行くのを準備しました。イエス様が答えました。“ペテロは私が本当にお前に言ったら、今夜にわとりが鳴く前にあなたが私分からないと三度否認するでしょう。”ペテロが言うのを“私が神様とともに死ぬと言っても決して神様を否認しないです。”したすべての弟子もそのように言いました。イエス様がペテロにこれから展開される事を予告したことはその事に当面した時最善の選択と決定をするように勧めたのです。

次は、イエス様がイスカリオテと呼ばれていたユダに向けてどんなおっしゃったのかをよく見ます。

一番目は、イエス様が弟子たちにおっしゃるのを“人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。しかし、あなたがたの中には信じない者がいる”。イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。

“(ヨハネによる福音書 6:63, 64)

二番目は、イエス様が弟子たちにおっしゃるのを“イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとりには悪魔である」。これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。(ヨハネによる福音書 6:70, 71)

三番目は、イエス様が弟子たちの足を洗わせながらおっしゃるのを“もう風呂に入った者は全身がきれいだから足しかもっと洗う必要がない。あなたがたがきれいだ皆ではない。”と言いました。ここにヨハネが付け加えて記録するのを“これはイエス様が自分を裏切る者が誰なのか分 皆ではないとおっしゃったのだ。”

四番目は、イエス様がにおっしゃるのを“そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事している者が、わたしを裏切ろうとしている。」”しました。(マルコによる福音書 14:18)

五番目は、イエス様がにおっしゃるのを“しかし、そこに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわいである”。(ルカによる福音書 22:21, 22)。

イエス様はイスカリオテユダに彼が何の事を計画しているし進行するようになるはずなのかをこのように何回重ねて予告しました。

これから私たちがよく見なければならぬことは弟子たちとペテロそしてイスカリオテユダにイエス様が予告した状況に直面するようになった時どんなに対処したのかです。

イエス様が弟子たちとともに甘藍山のゲツセマネ園に弟子たちとともにいらっしやいました。イエス様は弟子たちから距離を離れて伏せて祈りました。十字架に釘つけられてあがないの死を死ぬことを思って祈る時その汗が血のしたたりのように地に落ちました。そんな地境で弟子たちは眠っていました。“あなたたちの皆が今夜に私を裏切るでしょう。”とおっしゃった神様の言葉に対して彼らが無感覚な状態であることを現わしています。イエス様が祈りを終えると大祭司長たちと書記官たちと長老たちから送ることを受けた無理がつるぎと棒を持って来ました。イスカリオテユダが来てイエス様に近付いて“ラビ様”して口に せつぶんしました。すると彼らがイエス様をつかまえました。恐ろしさに捕らわれた弟子たちは皆イエス様を捨てて逃げました。

一方ペテロは大祭司長の家の庭の中までイエス様にやや遠く付いて行って下人たちとともに座って火をあたりながら大祭司長がイエス様を審問することを見ました。

その時周辺人々がペテロがイエス様の弟子なのを調べるとペテロは三度やイエス様が分からないと否認しました。その時ニワトリが鳴きました。ペテロは“ニワトリの鳴く前にあなたが否認するでしょう。”と言ったイエス様のお話思い出して外に出て甚だしく泣きわめきました。(マタイによる福音書 26:69-75) イエス様が予告した話お聞きする忘却して当面した状況に捕らわれて行動したペテロはここから振り返えました。ペテロは十字架に釘を打たれるイエス様を直接見ました。そして復活したイエス様をお目にかかって神様に向けた愛の告白をしました。それからペテロはイエス様の福音を伝えるのに力つくしたし殉教しました。

それではイスカリオテユダの対処に対してよく見ましょう。

イエス様はイスカリオテユダに十分に聞き分けるようにおっしゃったし良心を突くおっしゃったがイスカリオテユダは悔い改めることができなかったです。彼はイエス様が死刑に当たる判決を受けたことを見て悔やむ心を持ちました。彼はイエス様を売った対価に受けた 銀銭 30 個を聖殿に投げてしまって退いて自ら首を結んで死にました。彼はイエス様位に帰ってあわれんで思うことを得る方を選ぶのを拒否して退いて首を結んで死にました。

ペテロとイスカリオテユダはイエス様から彼らがどんな状況に処するようになるはずでどんなに対処するようになるはずなのかを予告するお話を聞きました。それは彼らに予定された事でした。しかし他に行動することができないように運命建てられたことではなかったです。イエス様があらかじめ彼らに教えてあげたということは正しい選択と決定の機会をくださったことに違いありません。ペテロはニワトリ泣く音を聞いてイエス様が彼に予告するお話を思い出しました。そしてイエス様に振り返えました。しかしイスカリオテユダはそうではなかったです。人の生まれは自分の意志や選択とは無関係です。私が決めて努力したことは私の生涯にあるすべての事の中でとても小さいな部分で残りは私の意志と関係ないのです。ところでこのような与えられた運命を変化させる驚異的な運命で住む道があります。その道が聖書に啓示されています。イエス様がペテロとイスカリオテユダに彼らの前に起こることを予告してくださったように聖書には私たちの前に起こることを予言したお話たちが記録されています。まことに驚くべきで感謝した事は聖書に記録された話お聞きする私たちが信じて順従すれば私たち各人が処しているどんな運命的な都合と状況でも皆有益で恵まれるようにできるという事実です。

イエスキリストを信じれば驚くべきで偉い身分と地位が付与されます。新しい被造物になって神様の子になります。天国市民になります。神様を愛してそのみ旨のどおり生きて行けばすべてのものが合力して善を成すようになります。福音を伝えて神様の仕事に力をつくせば神様のほめ言葉と賞を受けるようになります。主イエス様の名前で父の神様に切に求めれば時によって助ける恵みを得るようになります。このすべてのことは皆さんの自由意志として選択して決断することができるのです。皆さんは神様の主権と予定による運命を喜んで認めてください。そして神様がイエス様にあつてあがなわれた言葉を信じて従順する人々は驚異的で珍しい運命の所有者になったことを深く認識するように願います。そして嬉しくて胆大な心で生きて行くように願います。